

リトミックってなあに？

リトミックとは、スイスの作曲家・音楽教育家であるエミール・ジャック・ダルクローズ(1865～1950)によって考え出された音楽教育法です。日本では1981年、黒柳徹子さんの著書「窓際のトットちゃん」の中で、彼女が受けたユニークな教育法として紹介され話題になりましたが、まだまだ単なる「リズム遊び」との認識から脱していないように感じられます。

「音楽に合わせて歩いたり走ったりするんでしょ？」
「動物園に着きました、ゾウさんになって歩いてみましょう、とかでしょ？」



・・・たしかに、そんなことをしますね。でも、そこに奥深いものが実は潜んでいるのです。プチ幼児教室でのリトミックのレッスンの一部をご紹介します、その「奥深いもの」をお伝えできればと思います。

～即時反応～

指導者は、テンポを変えピアノを引き続けます。子どもたちは、歩くテンポではしっかり手を振って歩きます。ゆっくりになれば、一歩がドッシリと大きくなります。速くなれば(待ってましたとばかりに)走り出します。ピアノが止まれば動きも止まります。指導者の指示が先にありますが、今、何をやっているのかがしっかりわかってくると、音楽に対して体が自然に反応し、とてもスムーズな流れでなおかつ楽しむことができきます。それを証拠に、精神的に幼く、まだ感受性が育っていない子は、テンポに関係なく走り回ってしまいます・・・。



～自由な表現～

即時反応に連動して、「じゃあ、ピアノが止まったらゾウさんのポーズね」と提示します。ゾウさん・・・さて、どんなふうに表示するでしょう。多いのは、腕を長い鼻に見立ててパオ～！！のポーズですが、中には大きな耳を表現したり、四つんばいになる子も。自分と違う表現に「エ～??」の声もあがりますが、指導者は「面白いね。いいよ！」と肯定します。子ども達が実際に、あるいはTVや本の中で見た、またお父さんやお母さんから聞いたことのあるゾウの、なにがしかを自分なりに表現できれば、それは素晴らしいことです。他と一緒になくてもいい、自分と違うものも認める、そういった束縛されない心が育つ機会になります。

～積極性と協調性～

引き続いて、「じゃあ、次に止まった時は何になりたい？」と聞くと、ほとんどの子が口々に好き勝手を言い出します。・・・いえ、言葉が悪いですね。自分の意見を口にします。指導者に汲み取ってもらおうと、大声を出す子、勢いのある表情の子、勝手に始めちゃう子、と色々ですが、それぞれが十分にアピールをします。言葉を発しない子でもソッポを向いてるわけではなく、みんなの視線が指導者の方へ集まります。リトミックをグループでレッスンすることの意味のひとつは、ここにあります。皆で集中してひとつのことを形つくる、その為には積極的な意見の出し合いが皆の興味や関心を高め、また、自分の意見だけがいつも通るわけではない経験をする中で、譲り合いや協調性の意識も高まります。レッスンの中では、子ども達が決める・子ども個人が判断する、そういった場面がたくさんあります。

～好奇心・探究心～

レッスンの中では、カラーボールやフープをよく使います。フープをハンドルに見立てるのはよくある風景、他にも、お家になったりお池になったり。ボールに至っては、<赤ちゃん>に変身して、優しく抱っこしてユラユラ揺れてみたり、「高い高い！」をして上手にキャッチしてみる、など。「あの赤いお家(フープ)には、どんなジャンプをしたらお友達とぶつからないで入れるかな？」「この赤ちゃんは男の子かな？それとも女の子？」「起こさないように優しく揺れる、てどんなの？」指導者の言葉かけに子ども達は考えます。そして実際に動いてみます。想像力と運動能力の連動、こう書くと難しいようですが、子ども達はイマジネーションの世界で楽しみながらいろいろな力をつけていきます。また、物を使ってのレッスンは、大きさの比較や、色や数の認識にも有効です。そして、グループレッスンの意味がさらにここでもひとつ。それは、<他の子が知っている、自分が知らないこと>が存在することに気付くことです。そこにちいさな競争心が芽生え、より知りたいと思う好奇心や探究心が生まれることです。興味のわいた時が伸びる時。レッスンの中には、興味の種がいっぱいまかれています。



まとめ ～水とコップ～

水＝知識教育 コップ＝人間教育 とします。

幼児期に大切なのは、小さなコップにあふれんばかりの水を注ぐことより、将来に備えてコップを大きくすることだと思いませんか？

人格を形成するのは、探究心や向上心といった心(マインド)と、

表現力や判断力といった力(パワー)、それに

創造性や感受性、社会性といった性(キャラクター)の三つと言われます。

これらはお互いに補い合い成長していくもので、どれを欠いてもいけないし、

またこれらのバランスがとれていることが大切です。

こどものためのリトミックの目的は、豊かで可能性あふれる人格形成。

大げさなようですが、音楽を手段として幼児に優しく深く働きかけるリトミックに

楽しみながら子ども達の持っているあらゆる能力を引き出す教育だと思います。

人間としての器を大きくする手助けを、プチ幼児教室ではこれからも続けて行きます。



参考文献

リトミックってなあに リズムの良い子に育てよう
(岩崎光弘 著 ドレミ楽譜出版社)